


学会成果報告書

学会名	第 51 回日本小児感染症学会総会・学術集会		
大会長所属	旭川医科大学 小児科学講座		
大会長氏名	東 寛		
テーマ	感染・免疫学の覧古考新 -better patient care を目指して-		
開催日	2019 年 10 月 26 日～27 日	参加人数	1000 名
場所	星野リゾート OM07 旭川		
<p>学会サマリー</p> <p>学会全体として『感染・免疫学の覧古考新』と題し、医療的進歩のみならず社会環境にも影響され変化する小児の感染免疫疾患に係る事項に関して、多角的観点から最新の知見が発表され活発な議論がなされた。議題の中に上部尿路感染症に関して、あるいは溶血性尿毒症症候群に関してなどのセッションが設けられている。</p> <p>会長講演では慢性肉芽腫症、慢性再発性多発性骨髄炎など一例報告から研究が発展していく様を提示し臨床医の研究のあり方のプロトタイプが示された。加えて、特別講演は 2 題で安全性の高いアジュバントに関して、また小胞体ストレスの基礎研究最新知見に関して、それぞれ知っておくべき最先端の基礎研究成果が提示された。教育講演は 8 題、海外からの招待講演が 1 題催された。シンポジウムは 6 つ、動物由来感染症、マスギャザリングとインバウンド感染症、時代による感染症の変遷、医原性免疫抑制と感染症臨床像変化など、昨今の問題を凝縮するかのような題目で多くの参加者を集めた。一般演題は 293 演題が採択発表され、各セッションで活発な議論がなされた。</p> <p>加えて、小児感染症学会研究推進委員会主催のワークショップでは、若手小児科医に向けて研究の重要性を再認識しまた敷居を低くするような挑戦的講演がなされた。</p> <p>全体的に小児科臨床の中心的テーマの問題点を皆で共有解決していこうという熱気にあふれる充実した会になった。</p>			